

1. 授業者より

- ・本時の授業形態を間接指導で行おうと考え、学習内容については1・2年の学年の系統を考えた単元を選ぶことにした。
- ・両学年とも文章問題を扱い、ワークシートに絵、図、考え方、式、答えを書き、発表する形を取った。
- ・それぞれの学年に適切なところでタイミングよく関わっていなかった。関わり方が難しい。
- ・緊張していたこともあり、つぶやきが少なく、発表の仕方はいつもより元気がなかった。
- ・しっかり考えていたが、プリントに自分の考えたことを言葉で十分に表せていなかった。表すことにもっと慣れさせていかなければと思う。
- ・時間配分を考え指導案を立てていたが、個々の考えを書く時間や発表等に時間がかかりすぎ、授業時間内に終わらせることが出来なかった。

(1年生)

- ・考えを発表する時も具体物の操作をさせたかったが、言葉だけの説明に終わってしまった。
- ・個々に具体物を操作させることを大切にしているが、子どもによっては思考をまどわすこととなっていた。

(2年生)

- ・テープ図の扱い方のところで、もっと具体的に支援できていれば混乱しなかったと感じている。

2. 協議

- ・**教材の提示**では、工夫したさし絵や具体物があり興味をもたせやすかった。また、あさがおの植木鉢に芽が出るといった動くさし絵は、生活科との体験ともつながり身近に考えられたと思った。
- ・ワークシートは絵が入っていて楽しく勉強できる。2年生のワークシートは白テープを貼るため、色の工夫がよかった。
- ・**ポイントを示してでは**、目立つ色や形のカードで今日の学習のポイントを準備していて、サッと掲示するので分かりやすかった。
- ・**より有効な具体物の提示**については、ブロック・おはじき・具体物の良さを使い分ける必要がある。ブロックの掲示用が黒板であつたら良かった。植木鉢用のカップよりブロックが付くようなものの方が実感しやすかった。
- ・**しっかり考える**では、どの子もしっかり考えて式を立てようとしていた。よく考える姿勢はよかった。考えを言葉に表し説明することに難しい子どももいるが、おはじきで理解できていた。
- ・**具体物の活用**では、考える手だてとしての具体物などをきちんと用意していた。
- ・**学習の進め方**では、学習係の子どもがよく活躍し、自分たちで進めようとしていた。学習係の前の黒板の下に学習メニューを掲示してあり、進め方がよく分かった。子ども同士の言葉が優しい。互いにアドバイスできていた。発表者「見える？、こっちがいい？」質問者「良いと思うところがありました。」など。
- ・**学習規律の確立**ということで、声の大きさ、言葉づかい、発言の仕方、落ち着きなど学習態度はよかった。
- ・**学習の進め方の道しるべ**として、“まとめると”“わかっていること”“きかれていること”“まず”“はじめに”“つぎに”“だから”“それで”などの言葉を提示し、学習を進めやすいようにしている。学習で使う言葉などを色使いで分けることで子どもた

ちに分かりやすくして、学習の訓練はよくできている。型から入ることの重要性を認識した。

- ・つまづきへの手だてでは、間違っただ子どもへの扱いなどよかった。先生が難しいところで支援している。
- ・ノート指導について、発表はワークシートやモニターで行っているが、ノート指導も大切にしていすべきである。
- ・ヒントカードの与え方では、ヒントカードを使っていたが、常に功罪を考え、与え方に留意しなければならない。
- ・言葉でまとめる力を大切にしていくために、子どもから出た言葉「それより」をほめる。ほめることで次に、使おうという気持ちになる。また、わかっていることやきかれていることに線を引くだけでなく、言葉でまとめ書かせていたので題意がよくとらえられていた。
- ・求めることの確認で、学習係が「何を求めるか分かる人？」としっかり確認し合っている。
- ・関わり合うということから2年生に1年生の発表を聞かせたのはよかった。逆の立場で関わることも学習方法を身につけるうえで重要。
- ・テープ図を生かすためには、テープ図の良さを考える必要がある。テープ図の活用は考えを助けるが、どこで、どのような形で与えるか。
- ・表現について、自分の考えを説明文、図などを使い表現しようとしているが、しっかりとした言葉で表現していくことは低学年にとって難しい。

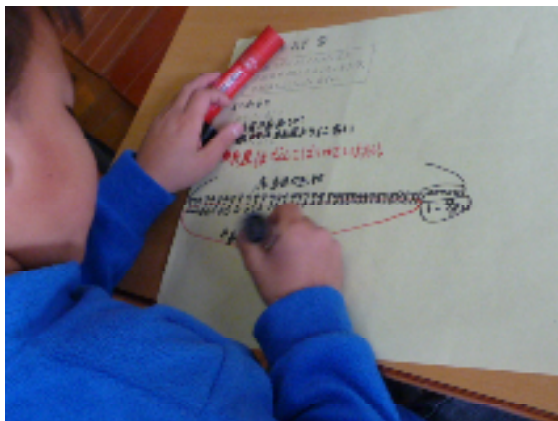
3. 今後の課題

- ・低学年のうちに具体物を提示し操作させながら、図をかくことに慣れさせていかなければならない。
- ・問題文を読んだ後すぐ式を書きたがるが、今後もポイントを押さえた後、図にかきながら自分の考えを整理していくことを大事にしたい。
- ・具体物を操作しながら自分の考えを発表させたい。また、子どもはひたすら発表していることが多く、発表する時は友だちの顔を見ながら（確認しながら）進められるようにしていきたい。
- ・考えを発表するとき、友だちの考えをしっかり聞く。更に、自分の考えと友だちの考えを比べながら聞こうとする態度を育てたい。
- ・図やテープ図をかくときなど既習の事を使えるように、ヒントの与え方を考えながら進めていきたい。
- ・考えを言葉に表すのは難しいが、友だちの発表の中で参考にしていく内容を具体的に取り上げ、参考にするよう声かけをしていきたい。説明で使える言葉に慣れさせていきたい。
- ・考えを書くホワイトボードやワークシートとノートの使い方を工夫しなければならない。
- ・子ども達が主体的に学習を進められるよう、もっと学習係と打ち合わせをしたり、発問などを工夫したりしていかなければならない。間接指導の形態をとるようにしたい。
- ・学習係の子どもによって進み具合に差が出てくる。だれでもというわけにはいかないが、できるだけどの子にも身につけさせたい。

1 年生



2 年生



協議会

